

# あべのハルカス

3月7日グランドオープン

南西方面から見たあべのハルカス



阿倍野歩道橋とあべのハルカス



# 雑松

第45号



平成26年3月10日

## 雑松会

大阪教育大学  
附属天王寺小学校  
〒545-0053  
大阪市阿倍野区松崎町  
1丁目2-45  
TEL. 06(6621)0123

## 母校から望む日本一のノッポビル

通天閣より天王寺公園越しに見たあべのハルカス



かねてより建設が進められていました、附属天王寺小学校のお隣元、大阪・阿倍野のランドマーク「あべのハルカス」が、この度ついに竣工、3月7日にグランドオープン、全面開業となりました。

建設規模は、延床面積30万6千㎡（内タワー1館は21万2千㎡）、地上60階・地下5階の壮大なもので、高さ300mは、横浜ランドマークタワーを抜き、「日本一高いビル」の称号が大阪に移りました。

名称であるハルカスは、古語の「晴るかす」から由来しており、この言葉には「人の心を晴れ晴れとさせる」という意味があり、ビルの上層階から晴れやかな景色を見渡して爽快感を味わえることや、多彩で充実した施設で来訪者に心地よさを感じてもらいたい、という思いが込められています。

世界へ発信し、発展していくあべのと共に、附属天王寺小学校も、将来世界で活躍する子どもたちを育て続けてほしいものです。

抜群の景観！母校へお立ち寄りください

## 雑松会 ジュニア会のご案内

★平成19年卒～平成26年卒の人

日時 平成26年3月24日(月)  
AM10:00～12:00  
場所 母校(附属天王寺小学校)

内容	
○議事	恩師や友人とのなつかしいお話、運動場でのスポーツ、楽しいお店も開きます。
○アトラクション	
○年次毎の同窓会	

### <主な記事>

- ◆雑松会ジュニア会のご案内……………1面
- ◆名誉会長・会長挨拶……………2面
- ◆第34回雑松会総会……………3面
- ◆附小NOW……………4面
- ◆転出された先生方……………5面
- ◆同期会報告……………6面
- ◆近況報告エトセトラ……………7面
- ◆年会費納入者一覧……………8面

総会・懇親会は二年に一度です。本年度は総会・懇親会はありません。

# 知恵を自ら育む教育を目指す



雑松会名誉会長  
大阪教育大学  
附属天王寺小学校校長  
水野 恵司

## 雑松会員はどこで活躍しているか

平成23年12月雑松会会報第13版が刊行された。同巻、会報は、会員同志の連絡に役立ち、会員同志の絆を強めるだけでなく、会員の皆さんが活躍されている様子もたくさん取り上げられ、改めて刊行に尽力いただきました。作成委員会の皆様には御礼を申し上げます。

この小文においては、名簿住所を参考に、各雑松会が卒業後のような地域で活躍されているのかを人口地理学的観点から考えてみました。

多くの会員は母校を卒業後、中学と高校に親元から通学し、更に進んで大学進学や就職をしても、住所を実家のままとして届けられる場合が多いと想像できる。従って卒業後しばらくの居住所は実態を示さないかもしれない。そこで、名簿に住所表記のある方々のうち、昭和60年度卒業（第104期）で現在約40歳までの方の3372人を対象とした。

結果は以下の通りである。近畿地方79%、大阪99%、兵庫11%、奈良6%、京都2%、滋賀・和歌山1%、関東地方6%、東京3%、神奈川4%、千葉・埼玉3%、茨城・栃木・群馬1%、中部地方3%、中国・四国地方1%、九州沖縄地方1%、東北地方0.5%、北海道0.5%、海外0.5%、アメリカ合衆国、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポール）

別居先を見ると、近畿地方49%、関東地方38%、中部地方6%、中国四国地方3%、九州沖縄地方1%、東北北海道1%、海外1%。雑松会会員は大阪都市圏に居住することが多く、次いで東京都市圏の居住者が多い。反対にその他の地方に居住する割合は非常に小さいように見える。またアメリカ合衆国を中心に世界各地に居住する。

一般的に人口移動と比べるために、例えば昭和60年度の大阪府からの転出者数他の地域に49%が分布して

いる。この期間の初めに、日本は第一次産業から第二次産業へ、後半期には第三次産業への就業人口の転換が進んだ。都市に多くの産業が成長し、人口を引き寄せた。同時に政治経済社会文化活動の中心機能が最も東京に、次いで大阪と名古屋に集中した。大阪はその地理的位置と歴史的背景から近畿、関東地方、九州沖縄地方、中国四国地方、中部地方との結びつきが強い。そのことが前述した大阪からの転出者数の地域別割合に反映されている。近年は人、物、情報の流動が加速し、空間的に拡大し、東京の中心性が強くなり、大阪の比重は低下しつつある。そのため大阪から東京への転出超過も拡大している。初めに述べた、大阪を離



雑松会会長  
(昭和36年卒)

## 学力と人間力と

附属天王寺小学校も本年で創立37年を迎えます。明治10年7月（1877年）に大阪府師範学校附属演習小学校として創立され、今日に至るまで1、100名を超える卒業生を送り出してまいりました。これからは、歴史と伝統に培われた気品、個性豊かな活動力、コミュニケーション力、リーダーシップを備えた雑松会一員が更に活躍を求め、世界に向けてグローバルに

次世代に渡り永く活躍されますことを期待申し上げる次第でございます。さて、第二次安倍内閣が掲げた「三本の矢」を柱とする経済政策「アベノミクス」は、デフレ脱却を目的とした10兆円規模の大型金融政策においてひとまず成功を果たし、円高修正、株価上昇、輸出好調となり、大企業や銀行各社が過去最高の利益を上げる等、日本全体の景気回復と消費拡大

につながっております。特に4月からの消費税増徴の影響もあり、高額商品の好調な先行きは近年にない現象と言えます。

この度、大阪天王寺において、高き日本一を誇るあべのハルカスが3月7日にオープン、全国からの注目を集め、天王寺周辺のランドマークとなっており、美術館をはじめ、世界の先端技術を取り入れた大阪市大の医療診療設備や、グロ

ーバルに展開しているマリオートホテルの併設等、近鉄グループが総力を結集し、世界、特にアジアに向けての積極発信地として展開しております。この総力を結集させたあべのハルカスといふ大商業施設が、同僚野、天王寺の地域に及ぼす影響は計り知れないものがあり、その地域と訪れるお客様と与えた価値創造は、大いに評価すべきものだと思います。

去る2月8日に雑松会の役員新年会を天王寺「新館」にて開催させて頂きました。学校側からは水野校長をはじめ、山手副校長、山本教諭、教育後援会理事長の西村、PTA会長の馬場様、各役員の方々の出席のもと、総勢30名の頭角を世を兼ねた新年会となりました。このように、附属天王寺小学校の主要セクションの方々が一堂に会する機会を得ましたことは、大変良かったと思っております。また、今文科直で検討されております放課後利用の問題や、英語授業に関する課題、グローバル社会における、学力と人間力とも兼ねる「コミュニケーション力」をどのように強化し、教

育成につなげていくか等、小学校教育の課題について大いに語り合うことができ、有意義な会合となりました。これを機会に、今後も附属天王寺小学校を思う心を集結した会合を持ちたいと思っております。

昨今雑松会のトピックスと言えは、大阪教育大学附属天王寺中・高等学校を卒業された山中伸弥氏のiPS細胞のノーベル賞受賞でしたが、この度の小保方晴子さんのSTAP細胞に関する理系女子の活躍は、年初の大きな話題となりました。山中氏が「創造性を育成する授業」を受け、「よへ学び、よく遊べ」の附属の教育方針に感謝すると語っていらっしゃいましたが、今回の小

保方さんの意表を突いた発見の根拠には、ヒトとマウスの相違点があるのではないかと思われま。このように知識を詰め込む教育から、フィジカルのような知恵を自ら育む教育を目指し、個性豊かな人づくりをモットーに、附属の良きが十分に生かされた人材が生まれることを目指しております。

結び、雑松会が日々成長の「健勝」活動を祈念申し上げますと共に、当会がますます発展し、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

## ノワールプチペンケース



雑松会では、毎年卒業生に記念品を贈呈していますが、本年度133期卒業生には、写真の「ノワールプチペンケース」を贈ることになり、3月14日の卒業式当日に、卒業生全員に渡されます。

## 133期卒業生記念品

## 雑松会ホームページ

http://www.hinamatsu.com/  
総会・懇親会の案内や雑松会の歩み、役員と各幹事、会費・協賛金の案内、そして会報のバックナンバーもご覧いただけます。是非「お気に入り」に入れて、時々雑松会のことを思い出して下さい！



# 第34回 雛松会総会

懇親会  
 平成25年  
 4月6日  
 天王寺都ホテル



## 皆で校内を見学 100名が参加して和やかに

昭和54年卒 櫻井忠孝(第98期)  
 平成25年4月6日(土)、午後3時半より「天王寺都ホテル」6階宴会の間にて開催されました。当日は、午後2時から「ひなまつりほほ」を会員の皆様に見学して頂けるよう学校の先生方に協力頂き、見学も実施いたしました。参加者10人と寂しい見学会となりました。天候不良の為、写真撮影が出来なかった為、安田副会長の

平成25年4月6日(土)、ご案内のもと、皆様で校内を見学し、その後、宴会に参加して頂きました。雛松会総会・懇親会は雨天にも関わらず、100名弱の参加者で賑やかな会となりました。

今回(第34回総会)は、昭和58年卒の直藤久美さんと平成3年卒の菅野剛史さんの司会のもと、西川会長の挨拶から始まり、水野名譽会長ご挨拶、八木先生ご挨拶のご挨拶と盛り上がるのが印象的でした。

今年度は、雛松会幹事会役員交代があり、西川会長より新副会長に就任いただきました。昭和49年卒の平井健三郎さんのご紹介と、引き続き副会長の職をお受けいただいた安田美津子さん、吉村計三さん、西村泰彦さんに、登壇いただき、雛松会役員の新体制のご紹介がありました。

今回は、ごほれの先生方の参加が少なく、懐かしい先生方のお顔を拝見できなかったと少し残念な結果でしたが、現役の先生方が15名と浪山の参加を頂き、平成卒の若手会員は先生方と懐かしそうに歓談していました。

会場内では、「もうすぐ140周年やな」と気の早い話も話題にあがっていました。

今回もPTAコーラス部の方にご参加頂き、課題曲と校歌を見事な歌声でご披露して頂いた上に、会場からのアンコールの声にも快くクラシックと天変盛り上がりしました。

あつと言っ間にも時間が経ち、吉村副会長のご挨拶で閉会となりました。

余談ですが、この日隣の会場ではリオのカーニバルのサンパ隊が来ていましたが、懇親会の途中で退出された方々は、受付付近のサンパ隊と遭遇して大喜びでした。

## 伝統守り革新続ける母校を誇りに



## 雛松幹事会 新年会 2月8日

先生・PTA・教育後援会・雛松会がスクラム組んで



### 昭和52年卒 谷口禎英(第96期)

本年度の新年会は、水野校長先生を始めとする諸先生方は御座り、PTA並びに教育後援会の皆様にも御臨席賜わる次第と相成り、2月8日に催されました。思えば、130周年記念(於リッツカールトンホテル)の際、PTA会長の任であった事から、雛松幹事会としての「パイ役」として運搬を願われ、式典準備に多少共にお立ち出されたのでは、と覚えています。

今回の運びも、その当時を思い出すかの様で、(先生方を始めとして)、PTA・教育後援会に雛松会の1つがスクラム組んだ取り組む姿勢の展開を迎えました。又、保護者でもある事から、双方の架け橋となる様に司会役を任せられました。西川会長の挨拶から始まり、水野校長先生のご挨拶を経て、吉村教育後援会理事による乾杯のご挨拶の後、食事懇親タイムへ移行しました。会も半ばを過ぎ、山手副校長先生より附小の近況報告をして頂きました。ご来賓の馬場PTA会長と西村教育後援会理事長からも御挨拶を頂戴し、皆さんで校歌を唱へて頂きました。最後に吉村副会長の締め括る言葉で閉会したのは、予定時間を30分も超過しての事でした。

当日は雨模様の中を御参席頂きました正副校長先生、雛松会担当先生もPTA・教育後援会の皆様、心より御礼申し上げます。



# 「伝統」という名の重み

森元貴子 先生  
(社会・生活)  
平成16年4月～  
平成25年3月

大阪市立住吉小学校へ転出

私は平成16年から25年までの9年間、附属天王寺小学校に勤務してまいりました。

中級算科の授業からスタートし、算科の領域を広く担当してまいりました。この附属小では、算科の授業が、算科の先生の手で、算科の先生から研究してまいりました。

とほほ、在職1年目は、伝統の重みを自覚するよりも、ただただ目の前の子どもたちに向き合い、指導してまいりました。算科の授業の大切さを改めて感じました。算科の授業の大切さを改めて感じました。

その最たるものが算科の授業でした。子どもたちの成長に感動を覚えた白旗の臨海学舎、3年生から宿泊を体験する林間学舎、綿密な計算のもと計画・準備された実施される運動会や学芸会など、毎年変わらずに行われる。これらの大切な行事を続けていく中で、引き継いでいくことが、私に「伝統」の重みを自覚させてくれました。なかでも、厳格に執り行われる入学式と卒業式。特に、晴々とした雰囲気の中、ピンと張りつめた空気が流れる卒業式、立派に成長した卒業生たちを送り出す度に、誇りげな気持ちで一杯になりました。決して変わらぬ大切なものが、子どもたちを大きく成長させていくのだと確信をもつ瞬間でした。

私は、常に附属小の子どもたちに「自覚を誇り」をもち、この大切さを伝えてまいりました。附属小で過ごした日々を思い返してみても、改めてこの言葉の意味を噛み締めています。伝統の重みを自覚し、自分の職務に誇りを感じられたことが私の大きな財産となりました。そのおかげで、どのような環境に置かれても、しっかりと前向きに胸を張って子どもたちに向き合っていく自信をいただけるようになったと感じています。

この貴重な9年間に出席したすべての子どもたちと保護者の皆様からのお礼を申し上げます。また、いろいろなご支援いただいた雑松会の皆様にも心から感謝しております。本当におりがどうもありがとうございます。

# 自己研鑽の大切さ学ぶ

川上康之 先生  
(算数)  
平成20年4月～  
平成25年3月

大阪市立三國小学校へ転出

私は平成20年4月から5年間附属天王寺小学校にお世話になりました。5年という長い期間ですが本当にお世話になりました。5年間いろいろな思い出が数えきれません。臨海学舎、林間学舎、学芸会、教育実習、教室とときりがありませんが、その一つひとつが非常に中身の濃い思い出です。

1年目は何もかもわからず、附属天王寺小学校という学校に押しこめられてしまいました。そんななか、私は力を与えてくれたのは算科の子どもたちでした。当時、3年生を担任していましたが、子どもたちの無邪気な笑顔は何よりの活性化でした。そんな笑顔に包まれた学校で1年間過ごせたことは、1年目以降の附属天王寺での学校生活の糧となりました。また、私が担任

した時はたかさんの先輩教員が附属におられました。当時は一度附属に赴任すると10年、長い方はそれ以上附属小学校でつとめる方も多く、私も10年はいれるかなと思っていました。そんな私ですが1年目の子どもたちの卒業とともに卒業となってしまったのは非常に残念で仕方ありません。

天王寺小学校では、自己研鑽の大切さを学ばせていただきました。算数を研究教科として、1年に4回も研究発表会をして多くの参加者の前で授業を行ったりと一般の小学校ではできない体験をさせていただきました。しかしこういって1時間1時間の日々の授業を大切にしなければならぬこと、日々自己研鑽しなければならぬことを強く実感させていただきました。

その最たるものが算科の授業でした。子どもたちの成長に感動を覚えた白旗の臨海学舎、3年生から宿泊を体験する林間学舎、綿密な計算のもと計画・準備された実施される運動会や学芸会など、毎年変わらずに行われる。これらの大切な行事を続けていく中で、引き継いでいくことが、私に「伝統」の重みを自覚させてくれました。なかでも、厳格に執り行われる入学式と卒業式。特に、晴々とした雰囲気の中、ピンと張りつめた空気が流れる卒業式、立派に成長した卒業生たちを送り出す度に、誇りげな気持ちで一杯になりました。決して変わらぬ大切なものが、子どもたちを大きく成長させていくのだと確信をもつ瞬間でした。

この貴重な9年間に出席したすべての子どもたちと保護者の皆様からのお礼を申し上げます。また、いろいろなご支援いただいた雑松会の皆様にも心から感謝しております。本当におりがどうもありがとうございます。

# お世話になりました 転出された先生がた 附小在任想い出メッセージ

## 附小魂

小林佐知子 先生  
(音楽)  
平成16年4月～  
平成25年3月

守口市立藤田小学校へ転出

早いもので、大阪教育大学附属天王寺小学校にお別れを告げ、1年がたちました。附属天王寺小学校に勤めていた日々が、すばらしい日々でした。子どもたちと過ごす日々が、私にとってかけがえのない日々です。

10年間、音楽教育に携わった私、附小で音楽を担当してまいりました。金鐘樂器をわたりわたる私、音楽を通して子どもたちと向き合ってきました。子どもたちから「先生、先生、先生」と呼ばれるたびに、心から嬉しくなりました。

毎朝の朝練は、子どもたちと一緒に練習してまいりました。子どもたちから「先生、先生、先生」と呼ばれるたびに、心から嬉しくなりました。

「つもり」に過ぎなかったのだと附小の先生方に気づかせていただいたのです。

学校行事も、これまで経験したよりも規模が大きくなり、中身の濃いものでした。とくに私が度肝を抜かれたのは、自身の臨海学舎です。300名や1チームの申し出、涙ながらに自分の思いを訴え、班長を中心として声を掛け合ってくれた仲間が、私に大きな励みを与えてくれました。

私は、今年教職19年目を迎えます。とほほ先輩担任した年から臨海の補給を打つてまいりました。そんなとき、小学校のときのなかまの話になると決まって元気を取りもどします。

そういって意味でも「雑松会」という卒業生のつながりがあるというところは、大変素晴らしいことだと実感します。

最後になりましたが、大阪教育大学附属天王寺小学校と雑松会の皆さまの福をお祈り致します。

「つもり」に過ぎなかったのだと附小の先生方に気づかせていただいたのです。

# 「大きな」1年間

村田憲一 先生  
(算数)  
平成24年4月～  
平成25年3月

交野市立郡津小学校へ転出

この度、交野市立郡津小学校に転任いたしました。附属天王寺小学校では、1年間の短い間ですが、大変お世話になりました。また、自身の体調を崩してしまいましたが、職場の皆様にも大変迷惑をおかけいたしました。そのこともあって、1年間という短い期間で、公立小学校にもお世話になりました。

さて、表題に「大きな」1年間と書かせて頂きました。私は、附小に赴任する前、16年間の教職経験がありました。その16年間に経験した、それ以上の1年間でした。

私たちの最も重要な仕事は「授業」です。附小の先生方は「授業」を本当に大切にしておられました。もちろん、私も大切にしたいです。

例えは、臨海学舎は過酷な行事です。親元を離れ、自然と向き合いながら自分の力を出し切るためには、精神的ななまきが必要になります。波がきつかったり、海水が冷たかったり、足が滑らなかつたりする。そんな恐怖は、子どもたちにとって相当高いハードルだと思います。それでも、自分と向き合い、自分の強さを打ち勝つたとき、子どもたちの表情は自信に溢れあふれ、ひとまわりも大きくなりました。成長したように感じました。

そして、自分も不安を抱えているのに、友だちを励まし、班のみんなを励ましていく姿には、何度も心を動かされました。

また、学芸会では本気で取り組む、少しでもよいものを目指して頑張ったという想いを強く感じました。私も子どもたちの想いに応えられよう、進曲をはじめ指導のひとこと本気でやりました。このように、何事にも本気で取り組む附小の子どもたちが、私は大好きです。そして、争うように努力する姿を、うれしく思う先生方にたくさんのお話を聞いたり、刺激を受け、私自身、教師として学びたい一人の人間として生きていきたいように感じています。

そして、研究とはどのようなものか、その大切さも改めて教えていただきました。研究会議や「ほれ会」で教わったことは、今の私の土台となっている大切なものです。本当におりがどうもありがとうございます。

在職中には、たまに卒業生が遊びに来てくれて、附小では元々あったのに、すっかり立派になっていく姿を何度も見て、とてもうれしく感じました。卒業生のみならず、これからも附小を胸に、それぞれの場所で自分らしく活躍してほしいと願っています。

最後になりましたが、大阪教育大学附属天王寺小学校と雑松会の皆さまの発展と、皆様のご多幸を心からお祈り申し上げます。

報 告	
この1年間に次の3名の恩師の先生方がお亡くなりになりました。	
<b>池田 義雄先生</b> (道徳)	平成24年12月18日 逝去
<b>成田 重明先生</b> (国語)	平成25年8月24日 逝去
<b>西本 繁夫先生</b> (図画工作)	平成25年11月15日 逝去
	昭和27年4月
	昭和48年3月
	昭和17年10月
	昭和22年3月
	昭和10年4月
	昭和29年2月

# 同期会フラッシュ



お知らせ

●同期会を開催される「一期」には、雑松会から2万円の同期会開催補助費を支給させていただきます。つきましては、会報への同期会開催記事と集合写真の出し稿と引き換えとなりますので、「協力」のほど宜しくお願いいたします。  
雑松会事務局まで雑松会ホームページから又はFAXにてご連絡下さい。  
(FAX)06-6771-1611

こんにちは

加齢もとも同窓会参加者  
を多く見かけました。  
最初に前年3年前の  
同窓会以降の物故者など  
対してしばしば挨拶。大阪  
ませんが、和気調々とした  
雰囲気でも話のテール配  
置などもよく調和して、  
楽しい時間を満喫できまし  
た。我々が昭和38年に卒業

## 卒業後50年目の同窓会

附小82期生の同窓会が、  
2013年10月6日にホ  
ルニューオータニ大阪で開  
催されました。出席者は恩  
師1名（辻本 成先生）  
と、同窓生は遠方からの参  
加者数は多数と言え  
感じました。



82期  
尾花俊作、大西良和  
23名参加  
(昭和38年卒)

平成25年  
10月6日  
ホテルニュー  
オータニ大阪

### 第124期 卒業生 同窓会



平成25年  
1月14日  
新阪急  
ホテル

44名参加

124期  
原谷 綾  
(平成17年卒)

### 成人式記念同窓会

平成25年1月14日、  
附屬天主寺小124期生の  
成人を記念して、新阪急ホ  
テルで同期会が開催されま  
した。田中先生、多田先  
生、西川先生、八木先生、  
河野先生、松岡先生を始め  
もつと挨拶にて会が始ま  
り、どの先生のご挨拶にも  
私たちが124期生への熱い  
思いが詰まっています。私た  
ちの心に深く刻み込まれま  
した。  
参加して下さった先生  
一生に一度の成人の日  
の所々で懐かしの歓聲の再  
が聞えたり、晴れ直での  
写真撮影を楽しんでいまし  
た。最後には、金園で附小  
校歌を歌い、会は静を閉じ  
ました。

計41人の出席でした。  
雑松会以外での初めての  
学年での集まりであった  
為、卒業以来から久しぶり  
の再会を果たした人もいた  
でしょう。  
先生方一人一人の心のこ  
ろの中で唯一、5・6年の  
担任を受け持った下さっ  
た松岡先生の乾杯音頭にて  
歓談が始まりました。  
入学式のDVD鑑賞、近  
況報告と楽しい時間はあっ  
という間に過ぎていき、そ  
ろそろ次の機会に集まれ  
ることを願っています。



立夏も過ぎ風さわやかな初夏の平  
成25年5月18日(土)、雑松会役員総務  
会メンバーを中心に、日本文化の総合  
芸術と言われる「お茶」を通じて、伝  
統に触れながら、お互いの親睦を深め  
ましよう、という目的で  
第一回目の雑松・お茶を  
楽しむ会が開催されました。  
今回はお茶は全く初め  
ての参加者もあり、これ  
まで附屬天主寺の生徒た  
ちに長年、お茶の指導に  
当たっておられる衣笠桂  
子先生（昭和25年卒）に  
も見守って頂きながら、  
雑松会幹事で表千家茶道の指導者でも  
ある首藤久美子（昭和58年卒）に、  
お茶席における作法や、お道具の事  
などについて、レクチャーしていただ  
きながらお茶をいただきました。

### 和気あいあい 世代越えて思い出話

当日は、お茶の席は午前5時後の  
部に分かれ、その間のお話にはお茶も  
用意され、皆で揃って頂き、和気あい  
あいと世代を超えて附屬天主寺小学校  
の思い出話や、今の小学校の様子も  
お話を聞いている間に花が咲き、  
それらが改めて附小の素晴らしさを  
再認識した一日でした。  
楽しい時間もおついでに過ぎ、  
第二回目の雑松会はお開きとなりま  
した。

### 第1回 お茶を楽しむ会 雑松



床の間には、中国の  
虚空智恵神師の詠んだ  
「清風在竹林」が掛け  
られ、竹龍に虎の尾な  
どが生けられ、初夏らし  
く、「また「松」が取り  
持つ緑でつながる雑  
松会の集まりというこで、松にちな  
んだお道具が使われていました。  
お菓子も、菓菓子にはこの時期なら  
は、薄緑色の「あやふき」を包ん  
だ目にも涼しい、「水たん」(鶴屋吉  
信製)が染付の磁器に入  
れて出され、干菓子の方  
は青楓と神鹿ちようど  
5月のこの時期は小鹿が  
生まれる時期で、生まれ  
てすぐに自分の足で歩  
くすくす歩いているこ  
とにちなみ、附屬の子達  
もさくさく歩いているこ  
の願いから、個屋福蘭製  
が用意されました。

# お元気ですか。またお会い しましょう

級・友・か・ら・の

## 近況報告

エ・ト・セ・ト・ラ

昨年寄せられた近況報告の中から掲載しています。年に1度の会報発行ですので、タイムリーに報告出来ないのが残念です。

- 昭和9年卒 福田 武之  
今年で92才になります。元気に趣味三昧で暮らしてあります。孫は孫、ひ孫はひ孫と共にはり島旅行中ですので、欠席していました。
- 昭和17年卒 上田 誠也  
金藤順次郎君と同期だったと思いますが、天王寺小学校には4、5年生の頃通っていました。数年前、金藤君とは偶然再会するところがありました。紫雲一慶君とも文通しています。なかなか難松会にも出席できず、残念です。
- 昭和18年卒 永田 夏雄  
前同、田村新十郎君が出席し、会員の消息を話したと思います。
- 昭和24年卒 新保 市弘  
自然ボランティアに努力中です。URLでご覧下さい。  
<http://www.hihome.jp/simino/>
- 昭和24年卒 河島 彦明  
昭和24年卒の仲間として今年(平成25年)は喜寿の年になります。2011年以降のクラス同窓会を秋にはやりたいと考えております。
- 昭和26年卒 福田 悦子  
毎年、同窓会(山松会)が開かれています。卒業以来と云われたことはありませぬ。
- 昭和27年卒 奥村 桂子(旧姓本田)  
私達は一度も現校舎に入ることなく卒業しましたが、「難松」の会報を見てみると、年を取れば取る程、大変楽しかった附小時代のことが懐かしく思い出されます。

附小なのだ改めて感謝しています。

昭和43年卒 秋田 光彦  
おかげさまでバドミントン部は、平成25年に創立60周年を迎えます。それを期に、このたび学校法人連光学園を創設、平成26年度には大規模な附小リニューアル工事を予定しています。

昭和58年卒 首藤 久美(旧姓中辻)  
表千家茶道講師として自宅にて指導を始めました。附属のご縁ですばらしい先生や仲間とめぐり合え、世代を越えて、お茶の心を共有し、生活しております。

平成10年卒 喜多 亮太  
2013年、月に長男が誕生しました。大阪に暮らし始めた際はせひ家にお立ち寄り下さい。

平成17年卒 中村 仁美  
成人式(2013年)では多くの友達や先生方とお会いでき、とてもうれしかったです。

平成24年卒 手塚 愛菜  
平成24年に附中に入學し、女子バレー部に入部しました。部活も勉強もがんばっています。

昭和32年卒 安田 美津子(旧姓成田)  
昔はすっかり忘れていた事なのですが、ふとした時に思い出されるのは附小時代の事です。私の原稿は

昭和42年卒 有田 憲治  
30年以上のアメリカ生活の後、日本に帰国して3年近くになります。東京での生活も慣れてきましたが、やはり大阪の手事は忘れられないです。数年後にアメリカへ帰国しますが、それまでは日本の生活をエンジョイしたいと思えます。

昭和50年卒 平田 健  
28年間勤務した日本興亜損害保険(株)を2013年3月末に退職。転勤生活に終了を打ち、大阪に戻ることになりました。

平成2年卒 渡邊 俊和  
神戸、大阪、東京、名古屋と転々とし、2013年4月より上海で生活しています。情勢や環境など、良くない話が多いので不安ですが、健康に気をつけて

平成11年卒 豊岡 佳奈(旧姓江田)  
昨年、娘は結婚致しました。お父にも披露宴にも娘の小・中・高の友人が出席して下さり盛大なご祝儀を頂きました。学生 日々精進して取り組んでお

平成24年卒 後藤 優佳  
平成24年4月に大阪教育大学附属天王寺中学校に入學し、勉強にクラブ活動に

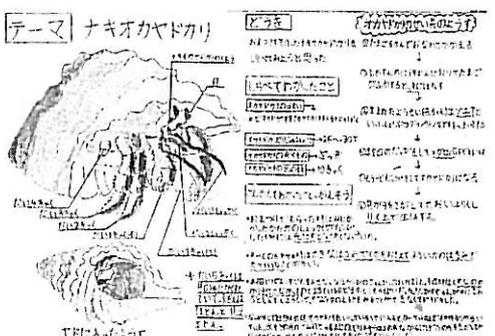
平成24年卒 手塚 愛菜  
平成24年に附中に入學し、女子バレー部に入部しました。部活も勉強もがんばっています。

### 在校生の活躍

## 第32回 「海とさかな」 自由研究

附属天王寺小2年 善明宗一郎君

### 「ナキオカヤドカリ」で朝日学生新聞社賞受賞



人や生物を育む海と魚の不思議について考える第32回「海とさかな」自由研究・作品コンクール「朝日新聞社、朝日学生新聞社主催、日本水産協賛」で、府内の小学生2人の絵画(創作部門)と観察図(研究部門)が最優秀賞に選ばれた。コンクールには全国から約3万1千点の応募があった。(五十嵐聖士郎)

### 海とさかなコン

## 府内2小学生 最優秀賞

### 大教大付天王寺小2年・善明君 研究部門



大阪教育大学付属天王寺小2年の善明宗一郎君(8)は、「ナキオカヤドカリ」の観察図で朝日学生新聞社賞に選ばれた。夏祭りの屋台で買った3センチほどのヤドカリを育て、砂にもぐって脱皮したり、水槽から逃げ出したりの生態や、その特徴をまとめた。

「去年はイフシの絵を描いたけど賞をとれなくて残念だったから、新しく飼ったヤドカリをテーマにした」と善明君。ヤドカリの絵は、父親に撮ってもらった写真を見ながら細かい部分まで丁寧に描いた。

## ヤドカリを詳細に観察

日々過ごしたいと思いつつ、の頭をふり返りました。教育環境のすばらしさを感じた一時でした。(母代筆)

ひなまつ会(2013年)で31期の皆に会える事を楽しみにしております。

平成25年度

# 年会費納入者氏名

(平成26年1月末現在・敬称略)

### 特別賛助会員

山上 隆郎・斎藤 隆徳・辻本 節子・安田 美津子・西川 雅夫・吉村 謙三・岡本 博雄・木下 浩一・和田 善雄・佐藤 武夫・藤田 隆夫

### 賛助会員

山田 美子・大西 英子・野田 裕子 一也・三宅 三郎・岡本 光正・北村 隆一・吉村 謙三・岡本 光正・北村 隆一・吉村 謙三・岡本 光正・北村 隆一

### 昭和5年卒

山田 美子

### 昭和6年卒

山田 美子

### 昭和7年卒

山田 美子

### 昭和8年卒

山田 美子

### 昭和9年卒

山田 美子

### 昭和10年卒

山田 美子

### 昭和11年卒

山田 美子

### 昭和12年卒

山田 美子

### 昭和13年卒

山田 美子

### 昭和14年卒

山田 美子

### 昭和15年卒

山田 美子

### 昭和16年卒

山田 美子

### 昭和17年卒

山田 美子

### 昭和18年卒

山田 美子

### 昭和19年卒

山田 美子

### 昭和20年卒

山田 美子

### 昭和21年卒

山田 美子

### 昭和22年卒

山田 美子

### 昭和23年卒

山田 美子

### 昭和24年卒

山田 美子

### 昭和25年卒

山田 美子

◎平成25年度も多くの方々から年会費を納入していただきました。感謝申し上げます。

◎事務処理上、誤り・脱落もあるかと思います。お気付きの方は雑松会事務局までFAXにてご連絡ください。(FAX 06-6771-6116)

◎平成26年度の会費は別記のようになっております。重ねてご協力をお願いします。

### 昭和26年卒

山田 美子

### 昭和27年卒

山田 美子

### 昭和28年卒

山田 美子

### 昭和29年卒

山田 美子

### 昭和30年卒

山田 美子

### 昭和31年卒

山田 美子

### 昭和32年卒

山田 美子

### 昭和33年卒

山田 美子

### 昭和34年卒

山田 美子

### 昭和35年卒

山田 美子

### 昭和36年卒

山田 美子

### 昭和37年卒

山田 美子

### 昭和38年卒

山田 美子

### 昭和39年卒

山田 美子

### 昭和40年卒

山田 美子

### 昭和41年卒

山田 美子

### 昭和42年卒

山田 美子

### 昭和43年卒

山田 美子

### 昭和44年卒

山田 美子

### 昭和45年卒

山田 美子

### 昭和46年卒

山田 美子

### 昭和47年卒

山田 美子

### 昭和48年卒

山田 美子

### 昭和49年卒

山田 美子

### 昭和50年卒

山田 美子

### 昭和51年卒

山田 美子

### 昭和52年卒

山田 美子

### 昭和53年卒

山田 美子

### 昭和54年卒

山田 美子

### 昭和55年卒

山田 美子

### 昭和56年卒

山田 美子

### 昭和58年卒

山田 美子

### 昭和59年卒

山田 美子

### 昭和60年卒

山田 美子

### 昭和61年卒

山田 美子

### 昭和62年卒

山田 美子

### 昭和63年卒

山田 美子

### 平成元年卒

山田 美子

### 平成2年卒

山田 美子

### 平成3年卒

山田 美子

### 平成4年卒

山田 美子

### 平成5年卒

山田 美子

### 平成6年卒

山田 美子

### 平成7年卒

山田 美子

### 平成8年卒

山田 美子

### 平成9年卒

山田 美子

### 平成10年卒

山田 美子

### 平成11年卒

山田 美子

### 平成12年卒

山田 美子

### 雑松会会計平成24年度収支計算書

平成24年4月1日～平成25年3月31日  
会計標準 単位: 万円

区分	金額	内容	金額
収入	2,026,000	年会費・特別賛助会員	1,994,000
		直接納入	32,000
		入金金	360,000
		年会費	240,000
		定期預金利息	1,322
		口座振替利息	231
支出	2,627,563	前年度からの繰越金	6,630,305
		定期預金(口座番号 2058071) 1年定期	736,305
		普通預金(口座番号 0112670)	774,026
		未払金(ひなまつり)	-20,000
		未払金(名簿より)	3,000
		前年度(24年3月卒業生入会金@3000×120名)	0
		前年度(24年3月卒業生入会金@3000×120名)	-360,000
		前年度(24年3月卒業生入会金@3000×120名)	-240,000
合計	10,159,139	総会費	0
		名簿作成費	243,594
		総経費	941,303
		名簿管理料	115,500
		雑費	345,742
		記念品	200,000
		事務用品	6,610
		雑費	20,696
		その他	164,077
合計	2,038,122	次年度への繰越金	0,121,057
		定期預金(口座番号 2058071) 1年定期	6,630,305
		普通預金(口座番号 0112670)	2,071,340
		普通預金(口座番号 0112670)	0
		郵便口座	0
		前年度(25年3月卒業生入会金@3000×116名)	-354,000
		前年度(25年3月卒業生入会金@3000×116名)	-238,000
		合計	0,121,057

### 平成26年度年会費について

- 同封の払込用紙をご利用下さい。
  - 30才以上の正会員の方は3,000円です。
  - 30才未満の正会員の方は2,000円です。
  - ご協力をお願いいただけます方には、賛助会費・特別賛助会費を設けております。よろしくお願いたします。
  - 賛助会費は5,000円、特別賛助会費は10,000円です。
  - 平成25年度卒(平成26年3月卒)の方は全員年会費を別途いただきますので、払い込みは不要です。
  - 同封の年会費払込用紙には、会員番号が印字されていますので、ご確認下さい。(氏名右下バーコード横の7桁の数字)
- 〇〇〇-〇〇-〇〇 (例、昭和50年卒6年3組40番の方)
- 明治1年 卒業 クラス 出席番号  
大正2年 昭和3年 平成4年
- 350-03-40
- 通信欄に近況報告等をお書き下さい。会報次号でご紹介します。郵便振替 大阪 00960-2-27966 雑松会宛

## 雑松会会員名簿 第13版(平成24年版) 平成24年11月発行

※同封の名簿用 払込用紙にてお申し込み下さい。